

「おもてなし」

6月21日に、佐賀中学校で「佐中祭」がありました。私たち3年生にとっては、最後の「佐中祭」であり、中心となつてがんばってきました。

今年、私はたこ焼きを販売しました。準備の段階では、たこ焼き器が借りられないかもしれないとか、カップの大きさが違うなどのトラブルが発生しましたが、でも、さまざまなアイデアや工夫で販売が実現しました。

「佐中祭」当日は、始まる前からたくさんのお客さんが来てくれました。

お客さんの反応も良く、作った物もたくさん売れて、とても嬉しかったです。そして、友だちとがんばった3年生のステージ発表もいい思い出になりました。

アイデアと工夫がいっぱい「佐中祭」、来年も後輩たちががんばりが楽しみです。

(佐賀中学校 3年 山下 沙希)



温かさ残る「竹皮草履」

7月7日からの3日間、大方中2年生の人権学習の一つとして、学級ごとに大方町民館で「竹皮草履作り」を教わりました。

竹皮草履作りは、万行の伝統的な産業でしたが、現在ではビニール製の履物が多くなり、その名はだんだん薄れていったそうです。

竹皮草履作りは初めてでした。編み目にすき間ができたり、編み目が不揃いになったりと、地元の方々のような草履ができません。何度も作り方を聞きました。その度に「ここはね」と笑顔で教えてくれました。おかげで、短い時間でしたが、なんとか草履の片方だけは仕上げることができました。

数日後、草履のもう片方を地元の方々が作ってください、みんなの手元に届きました。履いてみると、足の裏が涼しくて、「手作りっていいな」と思える温かさがありました。

3日間教えて下さった地元の皆さん、本当にありがとうございました。

(大方中学校 2年 山崎 媛加)



平和な世の中に

7月23日、上川口小学校の「被爆の地」の石碑の前で慰霊祭が行われ、6年生全員が参列しました。この石碑は、第2次世界大戦の時に爆弾を投下されて亡くなった人たちの供養するために建てられたそうです。そのころ上川口小学校には立派な講堂があり、兵隊さんの宿舎となっていました。昭和45年7月23日、午前0時20分に爆撃機、B29の大編隊から24発の爆弾が投下されました。兵隊93人が命を落とし、上川口に住んでいる住民2人も犠牲になりました。

ぼくたちが慰霊碑の所へ行くと、お年寄りが碑の前にもう座っていました。ぼくたちが後ろに立って準備ができるとお坊さんが碑の前に来て、お経を唱え始めました。10分くらいお経を唱え、ぼくたちから焼香をしました。その時、前からお年寄りの方々を見てみると真剣な目つきでした。ぼくはなぜか悲しい気分になりました。でも69年経った今でも上川口小学校で学んでいるぼくたちが一緒に供養できることをお年寄りの方々に喜んでもらっているのではないかと思います。

慰霊祭に初めて参列して、69年前の悲惨さが伝わってくるようでした。これからもこの出来事を絶対に忘れてはならないと思うし、何よりこのことを後世に伝えて語り継いでいかなければならないと思います。

(上川口小学校 6年 下村 勝真)

